



JCLIFE

2019年
9月号



一般社団法人尾道青年会議所 <http://www.ojc.or.jp/> 〒722-0035 尾道市土堂2-10-3 尾道商工会議所ビル3F
TEL: 0848-20-1110 FAX: 0848-20-1112 E-mail: ojc@urban.ne.jp Facebook: <http://www.facebook.com/isojcnw>



8月例会

8月18(日)、千光寺山荘にて
8月例会・定時総会が開催され
ました。

総会では第1号議案において
2020年度理事長予定者に



加度亮平君が推挙され、全員の賛成をもって承認可決されました。次に第2号議案においては2020年度監事数及び理事数が上程され、監事2名、理事長予定者含む理事20名が全員の賛成により承認可決されました。第3号議案として2020年度監事予定者に中谷純也君及び川崎耕平君が推薦され、全員の賛成をもって承認可決されました。

続いて理事選挙が行われ、厳正なる開票の結果、理事予定者20名が選出されました。次年度監事・理事の皆様、本当におめでとうございます。

(記事：岡田貴臣)

2020年度理事(20名)

小川 直紀君 (重任)	岡本 大輔君 (新任)	岡田 貴臣君 (重任)	岡田 健吾君 (新任)	大本 誠君 (重任)	大前 慶倫君 (重任)	大西 貴明君 (重任)	今岡 正英君 (重任)	池田 知和君 (重任)	加度 亮平君 (理事長)
吉田 嵩正君 (新任)	山本 圭介君 (新任)	政成 啓行君 (新任)	藤田 祐輔君 (新任)	沼田 剛志君 (新任)	中司 昌克君 (新任)	高山 敦好君 (新任)	高橋 洋樹君 (新任)	高橋 建太君 (新任)	小林 暢玄君 (重任)

2020年度監事(2名)



川崎 耕平君



中谷 純也君

夏期講習



8月17日(土)、千光寺山荘にて、夏期講習を開催しました。

今回は、大本誠委員長を中心とした地域の魅力創造委員会が「ジャイアントキリング」の経営者は誰だ

く」をテーマ

に、マネジメントゲームを行いました。

株式会社ホロス
プランニング 前平

先生をはじめとする講師の方々には、大変分かりやすく指導いただきました。

それぞれ、製造業の経営者になり、どうやって純資産を増やしていくか、悪戦苦闘しながら取り組みました。

人それぞれ経営手腕に特徴が出て、悲喜こもごもでしたが、非常に楽しい時間を過ごしました。夜は、親睦を深めるべく懇親会を開催。日中、脳にたくさん汗をかいたので、みんなで飲むお酒も格別です。

見事「NO.1」経営者の称号を得た中島裕一朗君が、高らかに勝者の弁を述べました。結束力が高まる非常に有意義な1日となりました。

(記事：吉田 尚正)



新理事研修

8月27日

(火)、西山別館におきまして、新理事研修を開催しました。

第59代理事長であられる本多隆士先輩のご講話を通じて、理事としてのやりがい、心構え、責任と自覚、事業運営における考え方について学びました。

尾道青年会議所は、尾道のまちのため、人々のため、尾道J.Cでしか出来ない、尾道J.Cだから出来ることを愚直にやつていく必要があることを痛感しました。理事に選ばれたからには、尾道のまちの皆さまから、決して恥ずかしくない行動を取らなければなりません。一人ひとりが自覚を持って、活動を行ってまいります。ぜひ、ご支援・ご協力をいただけましたら幸いです。

(記事：内海洋平)



新入会員 ガイダンス

7月24日(水)、新入会員ガイダンスを開催しました。

今年度、仮入会申込をいただいた方々にご参加いただき、より身近に青年会議所活動を知っていただく機会となりました。

皆さん緊張した面持ちでしたが、自己紹介では、堂々とお話されており、非常に印象的でした。ガイダンス後は、懇親会で現役メンバーとの親交を深めました。

笑顔が多く見られ、楽しいひと時を過ごしていただいたのではないかと思います。

今後、様々な事業に体験参加いただきながら、尾道青年会議所の魅力を知っていただくよう、現役メンバーも気を引き締めて臨んでまいります。

(記事：岡田 貴臣)



卒業生スピーチ



新宅 正章

まずは、山北理事長をはじめメンバーの皆さん、まだ事業がたくさん残っている中で卒業予定者7名の為にこのような場を設けていただき誠にありがとうございます。

私は人前で話すとき、普段は色々イメージして準備するのですが、今日は気の知れた皆さんの前でですので素で話をしようと思ひ、今日は何も準備しませんでした。

壇上で止まって喋るのが得意じゃないので、動きながら話しますが気にしないでください。

当初、何を話そうかと考えていたとき、ネットで色々材料を探していたんですが、その時に気になった情報を見つけてきました。それは、人が死ぬ時に何を後悔するのかという内容でした。色々な情報があり、千人看取った看護師の話とか、アメリカの脳科学者などが文献も出しているんですけど、大きく三つが取り上げられていました。

まず、一つが、「働きすぎた」これが第三位に上がっていました。第二位に上がっているのが、「人の顔色を伺いすぎた」そして、第一位で断トツに多いのが「挑戦しなかった」ことらしいです。しかし、「挑戦して失敗した」というのは20位以内にも入っていないみたいです。私も挑戦をしてみようという気持ちで、この度、フリーで話をしてみようと思ひました。では、せつかくプロフィール

を作っていただったので触れたいと思ひます。

私が尾道青年会議所に入会したときは尾道市の総務課に所属していましたが、今は消防局で働いているんですが、皆さんが思っている消防業務と少し違い、消防車を購入したり、各種計画やマニュアルを作成したり、という業務を行なっています。

私は、尾道青年会議所63年の歴史で、初の公務員JCです。なぜ入会したのか、という点について話をしたいと思います。

推薦者は、主推薦者が麻生裕雄先輩、副推薦者が小林輝久先輩です。麻生先輩は幼稚園・小学校の同級生です。中学校からは別々の学校に行ったのですが、20年ぶりに小学校の同窓会が開催されたときに久々に再会し意気投合して、そこから飲みに行ったりするようになりしました。そんなあるとき、居酒屋で飲んでいたら、いつもこの卒業生スピーチで名前が出る小林輝久先輩がおられました。小林先輩は大学時代ボクシングをしていたらしく、私も昔、キックボクシングしてたこともあり、昔のボクサーの話などで盛り上がってそれから飲みに連れて行っていただくようになりしました。そして、そんなあるときにJCに入会しないか、と誘ってくださいました。最初は、「経営者の団体ですよ」と聞いたんですが、「そんなことない。まちを思う青年経済人だったらいいんだよ」と言われました。「そうは言っても公務員の人で入った人いるんですか?」と聞くと、「いないよ。県内でもいないんじゃないか。」という話をされ、

やっぱりそうだろうな、と思ひました。話が飛ぶんですけど、県内では今まで公務員JCはゼロなんです。全国では200人位いて、3年前位に日本JCの事業の一つで公務員JCが集まって情報交換しようというところがあり、私も2回くらいその会合に参加しました。中には理事長をやっている人もいました。その200人のうち100人位は市町から会費が出ており、職員研修の一環として1年任期とか2年任期で人が交代することが多いです。ただし、トップが変わるとその予算が無くなったりするそうです。ですので、皆さんの中から次期市長が出ていただいて、予算を付けていただければと思います。

話を戻しますと、ある日、小林先輩に断ろうと思ひ、飲みに誘わせたんだけど、「すみません。色々お世話になっているのでですけど、やっぱり入会は難しいです」と伝えました。そのときに小林先輩が言われたのは、「分かった。そのかわり金輪際、市の職員が入ることはないな。」と言われました。私が昨年度、委員長をしたときの所信は、「ゼロからの創造」でした。ゼロから1にすることは、1から100にすることよりも遙かに難しい、という私の持論があり、そこを凄く突かれた感じでした。そして、もう一度、持ち帰り入会を決意しました。

私は、入会時に目標が二つありました。一つは、絶対に卒業する。これは、公務員JCとしての前例を作ることはいいですが、途中で辞めると悲しき前例になってしまいます。なので一つは自分がちゃんと卒業するということでは

た。二つ目は、後継者というか市の職員を誰か入会させたいと思ひました。官民の連携とよく言われていますが、官が民の中につり入り、仕事だけの付き合いではなく、人とひととして信頼を築くことが重要だと感じており、この関係を繋げていきたいと思ひました。しかし、仮入会を2枚書いてもらったことはあるんですが、最後は家族の反対などで入会していただくことが出来ませんでした。目標が二つ達成出来なかつたことは残念ですが、一番大きな目標でした。卒業が出来そうですので、良しと思ひたいと思ひます。

次に、昨年、委員長をさせていたんですが、卒業が目標の私が委員長までやるというのは予想外でした。美ノ上さんがだいたい背中を押してくれたおかげだと思ひます。この卒業生スピーチを聴いてきた中で、理事をやられた方は、委員長の時が一番しんどかつたけど、一番思い出に残っていると聞かれるし、理事をやらなかつた声がかけて断った方は、やつとけばよかつたということをよく聞かれるので、委員長に興味はありました。しかし、私が委員長をするのは色々な面で難しい、というのもすごいありました。選挙のときに受かつたとき、予想外だったので、ちょっと返答は待ってもらっていいですかと聞いたら、いや時間無いからと別室に連れていかれて、分かりましたと言ったのを覚えています。委員長をやった感じは、委員長は経営者の方がやるとすごく勉強になるのではと思ひました。



卒業生スピーチ

なぜかという、賃金とかを払う訳ではない中で、かなりメンバーに動いてもらうんですね。それは、自分の魅力とか理念とかに共感していただかないと、人って動いてくれないですよ。会社であれば、お金を払えば動いてもらえますけど。現在は、人材確保が難しい中で、条件がもつといい所があれば、すぐに転職する時代です。会社の理念とか社長とかに惚れて、仕事や職場が楽しければ条件だけで簡単に辞めなれないと思います。これは、真の経営者の理想像を勉強する場所なのかな、と思いました。それが本当は予想以上に難しかったです。委員長の時、中谷さんと委員会ごとに熱くディスカッションしたことが、もしかしたら事業より思い出深いのかなと思っています。

時間もあまりないので、最後にまことに對する想いを話して終わろうと思います。尾道つて今すごい観光客が来られて、その中でも特に外国人の方が増えているんですが、それは、日本遺産に登録されたからではありません。そのことは、きっかけの一つではありますが、ありません。尾道に人が集まるのは、面白いまぢだからです。なんで面白いかって言うたら行政が作ってないまぢだから面白いんです。商人が埋め立てて、商人がお寺を建立し、道を創り、だから景観がオリジナリティーに溢れている。だから、特に外国人には面白いまぢなのです。

近年、行政主体のまぢづくりになってきているのでは、と感じています。行政主体では面白いまぢづくりはできません。ここにの尾道で面白いまぢづくりをしていただく

きたいと思っています。私も出来る限りの支援をさせていただきます。以上で終わります。

6年間、大変御世話になりました。



勝島 達

皆さんこんばんは。幽霊会員である私にですね、このような場を用意くださいます。誠にありがとうございます。

何を話そうかなというところで、色々々は今日昼の2時ぐらいからですね事務局に行つてですね過去のJ・Cライフを見たりしてたんですけども、結局何を話すか決まらないままここに来てしまいましたんで、なのでプロフィールを作っていたいのでそれに沿つて話させていただきますと思います。

私の入会が平成24年と書いてあるんですけど、実はこの2年前にですね一回仮入会をしております。そのときの同期がラブワンの河井先輩であつたりとか、いとこの山根先輩でした。仮入会で、いよいよ入るぞという瞬間にですね、中國新聞の本社のほうの研修に出ないといけなくなつてですね、急遽ごめんなさいという形でお断りしましたが、その時の入会者をごみだ手帳を見たとき3人しかいなくてですね、これはまずいことをしたな今思えばしまったなと思っています。

そして2年研修が終わつて帰つてきた後ですね、帰つてきて1週間ぐらいです。ね、葬儀屋さんの馬原さんが店に連れて「もう入るよね」と。もう無理やりですよ。もう入会の紙を

置いていかれて。結局入る運びになりました。

その時もう親戚の方たちも入つてですね。安部さんとかですね、いらつしやつたのもう有無を言わずという形で入らせていただきました。

まあただ仕事柄朝早朝の仕事をしておりますので、夜の飲み会とかには参加できません。

ただ、その当時J・Cという団体は、基本的に夜の飲みは必ず行つて先輩たちの注ぐ酒は飲まなければならぬというのを聞いていましたので、これはこういうワガママ言つて通るのかなと思つたんですけども、実際に入つてみるとですね、そんな無茶を言われることはなく、ホントに夜すいません、出れませんとお話したら、代々の委員長も全然OKくださいます。まあ何とかこの場に立つことができました。

平成25年の時にですね、地域の文化継承委員会これ委員長が濱中先輩だったんですけど、このときが初めてのJ・C活動ということで、同期に中谷君がいらつしやつて、この時中谷君がいてくれたおかげで、この1年乗りきれたかなと思つています。ほぼ幹事の仕事をやっていただけてですね助かりました。この時ホント一番驚いたんですけど、委員会旅行つて行かれると思うんですけどこの時の委員長濱中先輩はですね、たくさんのお金を出してくださり、このお金で旅行に行こう、と全てを出してくださいました。

絶対怒る方じゃなかったんですけども、その時にスパー幹事の中谷君がですね次の日のことを考えてちよつとだけお金を残しておいたんですね。もうこれに濱中先輩が激怒されました。

「もつとみんなでどこか行けたじゃないか」つていう風にもうすごい怒られた記憶がですね。ホント楽しい委員会でした。

次の年の三谷さんが委員長の総務広報委員会だったんですけど、この時は正直僕の在籍した中で一番苦労した年でした。

その時副理事長が片岡先輩で、委員会で一生懸命三谷さんをヨイショして話をまとめて片岡さんのところに持つていくんですけど、全てゼロベースで返つてくるんです。ホントですよこれびくりしました。で、こういう風なものを作つてますというのを見せても、全部ゼロベースで返つてくるんですね。片岡先輩は熱い思いがすごく強くてですねこれはもはや片岡委員会じゃないかなという思いがあつたんですけど、最後は三谷さんの思いを乗せて色々卒業例会とか準備していただいて、事務局に1泊2泊したりとかしてですね。

大漁物産の岡田君の店にずっとみんなで籠つていろんなものを作つた記憶があります。

最後この卒業例会が終わつた後に片岡さんと三谷君がもう涙を流しながら抱き合つているのが今でも忘れられません。いい思い出ですよ。ねこういつて。

27年の時のですね会員拡大委員会これがですね僕のJ・Cライフの中でも最高にしたいもう最後だったんじゃないかなと思っています。

この時にですね武田さんの委員会だったんですけど夏期講習をですね賀茂川荘で披露させていただきました。とにかく明るい勝島というのをやらせていただいていたんですけどもこの時この為に体重を確か6キロ7キロ増やしたんです。ここからですね体

重が止まらなくなつてですね今や80キロの体になってしまいました。

この時のとにかく明るい勝島がですね凄い大盛況でその後ブロックのkkkの前夜祭です。これをぜひやってくれないかと、当時の専務理事の池田さんからですね言われてですね。で行ったんですけれどやっぱり身内ネタを外で披露するものじゃないですね。ダダすべりになりましたね。ひどい話なんですけど聞くと東広島のJCさんの中にですね。中国新聞の販売所の所長がいます。ですね。ムービー撮られたんですよ。それが本社のほうまで回つてですね「あいつは何をやっているんだ」とちよつとお叱りを受けたことがあります。

しかもその委員会の練習がですね加度商さんのところまで行って全員で練習をしたのが今でも忘れられません。

この時の委員会がその意味ではこの8年間最後一番輝いていたんじゃないのかなと思います。

次の年は村上先輩の総務広報委員会だったんですけれどもこの年の記憶は全くございません。ほほほほ出ておりませんでした。色々ホント忙しかつたんだと思います。ちよつどの時の記憶が欠落しているのので申し訳ございません。

29年の地域特性を活かしたまちづくり委員会、ここは宮地さんが委員長ですね。この時は前年度ちよつとあんまりやらなかったから今年頑張ろうとやっつたんですけれど、ちよつどですね中国新聞の瀬戸田の会社というところがあつてそちらのほうを急遽私が引き継ぐことになってですね、ほほほほ向島にすら居れない、瀬戸田に泊まり込みで何か月かという状況になってしかも第二児の出産とかさなつてですねもはやこれは

委員会ほぼ参加できないなというところで宮地さんにはホントご迷惑をおかけしました。すいませんでした。

たまに出ては偉そうなことを言つて帰つてしまつて、ホントご迷惑をおかけしたと思います。

翌年の会員資質向上委員会の中島君の委員会なんですけれど、この時はホント中島君あの未曾有の大災害とかです。ね向島に逃亡犯が来たり色々あつてですね、各事業がことごとく中止になるというなかなかのものでした。ただその時チャリティーイベントをやりましたね。

その時の思い出がホントすごい残つてですね山北理事長と二緒にラーメンを作つたんですけれど。すごく采配がよくてスムーズにお客さんも食べていただいたと思います。

すこい楽しいイベントでした。本年度の委員会なんですけれど次代を担う宝育成委員会加藤委員会なんですけれどこちらの委員会ホント今所属させてもらつとるんですけれど、すばらしいメンバーに囲まれてですね本日こんな僕のためにみなさん集まつてありがとうございます。

以上が僕の華麗なる経歴なんですけれど、そんな僕からですね一言だけですねお伝えというか言つておきたいことがあつてですね、特に今JC活動に参加できてないかたにお伝えしたいことがあります。

仕事とか家庭の関係上やはりなかなか参加することができないかたつて思うんです。僕が特にそうだったんですけれど、そうなんですけれど、やはりその時の委員長はやはり来てほしいという思いがすこい強いと思うんです。

だからスポットでしか出れないことも多いと思います。特に今出れない人たちもこ

こにも来てない人いると思うんですけれども、たまに出たとき、やっぱりめつたに出ていないからあんまり発言つてしづらいなと思うんです。ただですねいつも委員会って同じメンバーで話してるとですね、意見がなかなか凝り固まつてくる人が多いと思うんです。すよ。そういう時にめつたに出れない者が入ることによつてまた意見が新しく出てきて、議論が沸騰すると思ひます。すし大事なのが第三者視点で物が見れることだと思ひます。すよ。私、こういうポジションに言つても勝手に幽霊会員になつただけなんですけどなつたお陰で尾道JCというのも客観的に見ることもできたと思ひつています。

その時にやはり第三者、全くJC事業する時の自分たちの第一人称であつたりだとかあと呼んだり影響を及ぼす人たちのことを考えたり、第三者の視点であつたりとかあると思うんです。全然別角度の意見が言えると思うんです。

なのであまりJC参加できてないからといって委縮することなくいろんな意見を発信していただきたいと思ひます。それは本当に難しいことだと思ひます。最初の頃は僕も何も言えなかつたです。

ただやはり自分も尾道の者なので尾道を良くしたいという思いは何だかんだいってあります。その思いを伝えていけば良いのかなと思ひます。

もう1つだけ言わせてください。こういうこと言うのと反感を買つたりすると思うんです。すよ、もちろんJCに参加されていくかたたちは家族をすこく大切にされていくと思ひます。ただやっぱり「仕事」「家族」「JC」というのを全て両立するのは非常に難しいと思ひます。

僕自身がとつても辛く苦労しました。結

局JCというものをあんまり活動できなかったんですけれども、そういう中で一番大事なのは家族の中で、子どもが生まれるということだと思ひます。その中で大事にしなければならぬ子どもが生まれるその瞬間をですねこの40までのかただったら、皆さんあると思うんです。すよ。思ひます。なかなかその真面目な人程そういうところがJCや仕事で板挟みになつて見れなくなることが多いと思ひます。なので家族を見るときにJCをさぼるといふ訳じゃないんですけども周りの委員会のメンバーであつたりだとかさういった者たちが「あそこ最近子供が生まれたばつかなかだ」「あそこ家庭がヤバそうだぞ」というところがあつたらですねひと声かけてあげたりとか例えば夜のアフターを「もう帰りなよ」と言つてあげたり。

つい最近今日知つたんですけれども、あるJCメンバーのおうちに赤ちゃんが生まれてたとお伺いしました。ですがそのかたは今日こちらに連れて来られております。すこい事だと僕は思ひます。3日4日前に生まれたと聞いたので…ですがやはりそういつたときに休む勇気じゃないです。すよ。思ひます。勇気は大事だと思ひます。こんなことを言うのとホント反感を買うんじゃないかと思うんです。すよ。幽霊会員の僕じゃないといえないうことかと思つて言わせていただきました。大事な8年間だったと思ひます。

これからも皆さん「仕事」「家族」「JC」にがんばつていただきたいと思ひます。今までありがとうございます。